

シンポジウム

よみがえる映画「三朝小唄」の記憶

— 地域文化と映画 —

入場無料

泣いて別れりや
空まで
雲りや
三朝が...

日時 2006年
3月19日(日)
午後1時～午後4時15分

会場 三朝町総合文化ホール

主催/鳥取県三朝町
立命館大学アート・リサーチセンター
立命館大学21世紀COE「京都アート・
エンタテインメント創成研究」

協力/マツダ映画社

後援/鳥取放送局・株新日本海新聞社
読売新聞鳥取支局・毎日新聞鳥取支局
朝日新聞鳥取総局・産経新聞鳥取支局
山陰中央新報社

問い合わせ先/三朝町役場産業課
TEL0858-43-3514

第1部 『三朝小唄』シンポジウム

『三朝小唄』プロジェクト報告

富田美香(立命館大学文学部)

フィルムは生き物なんや

—『三朝小唄』復元の記録—(上映/15分)

記憶を紡ぐフィルム—『三朝小唄』の輝き—(上映/15分)

流行歌『三朝小唄』について

大西秀紀氏(立命館大学COE推進機構客員研究員)

地域文化と映画文化

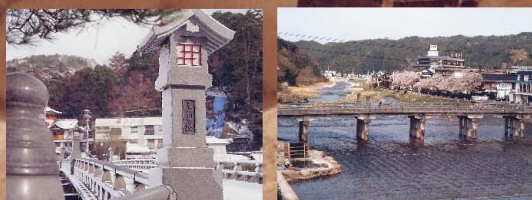
川村健一郎氏(川崎市市民ミュージアム学芸員)

『三朝小唄』ディスカッション

澤登翠氏、大西秀紀氏、川村健一郎氏、司会:富田美香

第2部 『三朝小唄』上映会

『三朝小唄』(1929年、マキノ御室)復元版 35mm 18コマ/秒映写60分
澤登翠弁士、ピアノ、ギター演奏つき上映



現在の三朝橋

シンポジウム

よみがえる映画『三朝小唄』の記憶

- 地域文化と映画 -

第一部 『三朝小唄』シンポジウム 13:00～15:00

13:00～13:05 開会の挨拶

13:05～13:45 「『三朝小唄』プロジェクト報告」 富田美香(立命館大学文学部)

「フィルムは生き物なんや —『三朝小唄』復元の記録—」上映(2005 年、15 分)

「記憶を紡ぐフィルム —『三朝小唄』の輝き—」上映(2006 年、15 分)

『三朝小唄』プロジェクトは、“神の手”の異名を持つ映画復元技術者のヨハン・プライス氏による映画復元講演(2003 年 2 月、東京、共催:東京国立近代美術館フィルムセンター、立命館大学 21COE 京都アート・エンタテインメント創成研究)を皮切りにスタートしました。本報告では、プロジェクトの概要とともに、『三朝小唄』の復元に取材した「フィルムは生き物なんや —『三朝小唄』復元の記録—」と、文化資産としての『三朝小唄』をまとめた「記憶を紡ぐフィルム —『三朝小唄』の輝き—」を報告上映します。

13:45～14:00 流行歌「三朝小唄」について 大西秀紀(立命館大学 COE 推進機構客員研究員)

映画『三朝小唄』の発端となった小唄「三朝小唄」について、その変遷や特色を解説します。

14:00～14:15 地域文化と映画文化 川村健一郎(川崎市市民ミュージアム 学芸員)

現在全国で展開されているコミュニティ・シネマやフィルム・コミッションなどの地域運動を紹介し、地域文化と映画との視点から映画『三朝小唄』のユニークさを解説します。

14:15～15:00 『三朝小唄』ディスカッション 澤登翠、大西秀紀、川村健一郎、司会:富田美香

<休憩 15:00～15:15>

第二部 『三朝小唄』上映会 15:15～16:15

『三朝小唄』(1929 年、マキノ御室)復元版 35mm 18 コマ/秒映写 60 分

澤登翠弁士、ピアノ:村井音文、ギター:湯浅ジョウイチ(楽団カラード・モノトーン)

マキノ映画から鳥取県三朝町にロケ協力の御礼として 1929 年に贈呈された可燃性フィルムを、株式会社 IMAGICA ウェストの技術と東京国立近代美術館フィルムセンターによって復元した『三朝小唄』を上映します。

日時:2006 年 3 月 19 日(日)13:00～16:15

会場:三朝町総合文化ホール 入場無料

主催:鳥取県三朝町、立命館大学アート・リサーチセンター

立命館大学 21 世紀 COE「京都アート・エンタテインメント創成研究」

協力:マツダ映画社

後援:NHK 鳥取放送局、(株)新日本海新聞社、読売新聞鳥取支局

毎日新聞鳥取支局、朝日新聞鳥取総局、産経新聞鳥取支局

山陰中央新報社

問い合わせ先:三朝町役場産業課 TEL0858-43-3514

